

1. 科目名 (単位数)	社会心理学特論 (2単位)	3. 科目番号	PSMP5230
2. 授業担当教員	石川 清子		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特にない。	履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	社会心理学の主要なトピックのひとつであり、心理臨床の場において必須である「対人認知」について、社会的認知研究の観点から理解することを試みる。その理解を踏まえて受講生各自の自己覚知を促す。これらを通して、心理臨床の場における相談者と相談者を取り巻く環境について、心理専門職者として適切な受け止め方を考えると同時に、「人間理解」という心理学の大命題について議論したい。		
8. 学習目標	①人がどのように他者を認知しているのかについて理解すること。 ②①をふまえ自身の日常のふるまいを内省し、自身の対人認知のクセについて自己覚知すること。 ③対人認知についての学びを心理臨床の場において応用するためのアイデアについて考えること。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	【アサインメント】すべての受講生が毎回、講義で扱う教科書の章を事前に熟読すること。加えて説明担当者は、担当する章(節)について説明用のレジュメを作成し、講義日前日までに受講生全員に配布すること。 【レポート課題】本講義で学んだこと、本講義での学びによって自己覚知したことの内容、それらを踏まえた本講義の学びについての臨床の場における応用、の3点について、小論文形式でレポートする。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 使用しない 【参考文献】 山本真理子・外山みどり・池上知子・遠藤由美・北村英哉・宮本聡介編『社会的認知ハンドブック』北大路書房、2001年。 唐沢穰・池上知子・唐沢かおり・大平英樹(著)『社会的認知の心理学 社会を描く心のはたらき』ナカニシヤ出版、2001年。 唐沢かおり『みきわめと対人関係の心理学 なぜ心を読みすぎるのか』東京大学出版、2017年。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 学則で定められた3/4回以上の出席を前提として、上記の学習目標を達成できること。 ○評定の方法 学則で定められた規準を満たしていることを前提として、説明(発表)用レジュメと授業態度 50%、課題レポート 50%を総合的に評価する。		
12. 受講生へのメッセージ	心理臨床の場で必須となる「相談者を理解すること」について、社会心理学的観点から考えます。内容に興味をもつ学生は多いと思いますが、実際に講義の内容を的確に理解するのはかなり難しいと思います。したがって、ただ講義に参加して話を聞くだけでは理解が追いつかず、レポート課題がこなせなくなり提出できなくなるといった事態の発生が予想されます。そのような事態にならないようにするために、毎回各自で予習復習をし、各回のテーマについて参考文献を読みながら考えることを勧めます。 レポート課題について、教科書や参考文献を引用することは大切ですが、結論とそれを導き出す過程については受講生自身の言葉で論理的に説明することを求めます。教科書や参考文献の引用を単純にまとめたレポートは講義内容の理解が充分でないかと判断します。ただし受講生自身の言葉で説明することとは、受講生が思ったこと感じたことを主観的に羅列することとは異なります。誤解のないようにしてください。		
13. オフィスアワー	初回講義時に周知する。		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	オリエンテーション：対人認知を考える視点		
【学習の目標】	「心を読み、他者を評価する」ことの対人認知的意味を理解すること。		
【学習の内容】	第2章以降の内容を理解するための導入として、教科書の第1章を読み解くこと。		
【キーワード】	対人認知過程、誘発性、認知バイアス		
【学習の課題】	対人認知過程において生じる心の働きの概要を理解すること。		
【参考文献】	山本真理子・外山みどり・池上知子・遠藤由美・北村英哉・宮本聡介編(2001). 社会的認知ハンドブック. 北大路書房. 唐沢穰・池上知子・唐沢かおり・大平英樹(著)(2001). 社会的認知の心理学 社会を描く心のはたらき, ナカニシヤ出版.		
【学習する上での留意点】	第2講以降の説明の進め方について観察学習をすること。予習の時点で理解が難しい用語があった場合には、その用語について自分の言葉で説明できるように調べ学習を行うこと。		
2. テーマ	性格特性から見る評価の役割(1)：性格特性を中心に対人表象を形成することについて		
【学習の目標】	性格特性を中心に対人表象を形成する心のはたらきについて理解する。		
【学習の内容】	教科書P.25からP.50までの内容を扱う。		
【キーワード】	印象形成、対人記憶、確証バイアス		
【学習の課題】	教科書の該当箇所についての理解およびそれを踏まえての自己覚知		
【参考文献】	Asch, S. E. (1946). Forming impressions of personality. <i>The Journal of Abnormal and Social Psychology</i> , <b>41</b> , 258-290. Rosenberg, S., Nelson, C., & Vivekananthan, P. S. (1968). A multidimensional approach to the structure of personality. <i>Journal of Personality and Social Psychology</i> , <b>9</b> , 283-294. Srull, T. K., & Wyer, R. S. (1989). Person memory and judgement. <i>Psychological Review</i> , <b>47</b> , 237-252.		
【学習する上での留意点】	説明時間は40分から50分を目安として、発表者はその時間内で担当するテーマについて報告できるようにレジュメを準備すること。説明用レジュメは、パワーポイント形式で20スライド程度にまとめること。その際、レジュメの内容は各講義で扱う内容(教科書の該当箇所)について要点をまとめることとする。発表後30分間を質疑応答及び討論の時間とする。発表者は担当回の内容についてはどのような質問をされても答えられるように準備をして講義に臨むこと。また説明者ではない受講		

生においては、予習の時点で理解が難しい用語について自分の言葉で説明できるように調べ学習を行うこと。	
3. テーマ	性格特性から見る評価の役割(2): 他者を評価することの重要性和対人認知次元としての普遍性
【学習の目標】	他者を評価することの重要性和対人認知次元としての普遍性について理解する。
【学習の内容】	教科書P. 51か教科書の該当箇所についての理解およびそれを踏まえての自己覚知らP. 67までの内容を扱う。
【キーワード】	他者認知、集団ステレオタイプ、自己認知
【学習の課題】	教科書の該当箇所についての理解およびそれを踏まえての自己覚知
【参考文献】	Rosenberg, S., Nelzon, C., & Vivekananthan, P. S. (1968). A multidimensional approach to the structure of personality. <i>Journal of Personality and Social Psychology</i> , <b>9</b> , 283-294. Wojciszke, B., Bazinska, R., & Jaworski, M. (1998). On the dominance of moral categories in impression formation. <i>Personality and Social Psychology Bulletin</i> , <b>23</b> , 1245-1257.
【学習する上での留意点】	第2講と同様とする。
4. テーマ	行動の原因としての心(1): 「心を読み、他者をみきわめる」ことの根底にあるもの
【学習の目標】	「行動原因としての心」を推論する際の心の基礎的な特徴を理解する。
【学習の内容】	教科書P. 69からP. 95までの内容を扱う。
【キーワード】	原因帰属、対応推論、対応バイアス
【学習の課題】	教科書の該当箇所についての理解およびそれを踏まえての自己覚知
【参考文献】	Jones, E. E., & Davis, K. E. (1965). From acts to dispositions: The attribution process in person perception. In L. Berkowitz (Ed.), <i>Advances in experimental social psychology (Vol. 2)</i> (pp. 219-266), New York: Academic Press.
【学習する上での留意点】	第2講と同様とする。
5. テーマ	行動の原因としての心(2): 対応推論の新たな展開
【学習の目標】	対応バイアスに対する批判と対応推論の新たな展開による研究で得られた知見について理解する。
【学習の内容】	教科書P. 95からP. 123までの内容を扱う。
【キーワード】	日常的概念による説明の理論、多重推論モデル
【学習の課題】	教科書の該当箇所についての理解およびそれを踏まえての自己覚知
【参考文献】	Fein, S. (1993). Does the grist change the mill? The effect of the perceiver's inferential goal on the process of social inference. <i>Personality and Social Psychology Bulletin</i> , <b>19</b> , 340-348. Malle, B. F. (2004). <i>Hou the mind explains behavior: Folk explanations, meaning, and social interaction</i> . Cambridge, MA: MIT Press. Reeder, G. D. (2009). Mindreading: Judgments about intentionality and motives in dispositional inference. <i>Psychological Inquiry</i> , <b>20</b> , 1-18.
【学習する上での留意点】	第2講と同様とする。
6. テーマ	心の推論方略(1): 理論説
【学習の目標】	他者の心の推論に適用された場合の「理論説」の特徴と生じしやすい条件について理解する。
【学習の内容】	教科書P. 125からP. 140までの内容を扱う。
【キーワード】	理論説
【学習の課題】	教科書の該当箇所についての理解およびそれを踏まえての自己覚知
【参考文献】	特に指定しないが、各種認知心理学のテキストにおける「推論」の章や節が参考になる。
【学習する上での留意点】	第2講と同様とする。
7. テーマ	心の推論方略(2): シミュレーション説
【学習の目標】	他者の心の推論に適用された場合の「シミュレーション説」の特徴と生じしやすい条件について理解する。
【学習の内容】	教科書P. 140からP. 152までの内容を扱う。
【キーワード】	シミュレーション説
【学習の課題】	教科書の該当箇所についての理解およびそれを踏まえての自己覚知
【参考文献】	特に指定しないが、各種認知心理学のテキストにおける「推論」の章や節が参考になる。
【学習する上での留意点】	第2講と同様とする。
8. テーマ	心の推論方略(3): 他者の心が「正しく推論しがたいこと」をめぐる議論
【学習の目標】	「正確な心の推論」の意味とその両面的価値について社会生活と関連づけながら理解する。
【学習の内容】	教科書P. 153からP. 166までの内容を扱う。
【キーワード】	適応的観点、類似性に基づく推論、共感的理解
【学習の課題】	教科書の該当箇所についての理解およびそれを踏まえての自己覚知
【参考文献】	Zaki, J., & Ochsner, K. (2011). Reintegrating the study of accuracy into social cognition research. <i>Psychological Inquiry</i> , <b>22</b> , 159-182. Hodges, S. d., Kiel, K. J., Kramer, A. D. I., Veach, D., & Villanueva, B. R. (2010). Giving birth to empathy: The effects of similar experience on empathic accuracy, empathic concern, and perceived empathy. <i>Personality and Social Psychology Bulletin</i> , <b>36</b> , 398-409.
【学習する上での留意点】	第2講と同様とする。
9. テーマ	人間としてみる(1): どのような心の性質を持つことが人間としてみなされる条件になるのか
【学習の目標】	「人間」である他者に対する扱いと「非人間化」された他者に対する扱いの違いについて理解する。
【学習の内容】	教科書P. 167からP. 194までの内容を扱う。
【キーワード】	非人間化、人間らしさ
【学習の課題】	教科書の該当箇所についての理解およびそれを踏まえての自己覚知
【参考文献】	Haslam, N. (2006). Dehumanization: An integrative review. <i>Personality and Social Psychology Review</i> , <b>10</b> ,

252-264. 【学習する上での留意点】 第2講と同様とする。	
10. テーマ	人間としてみる(2): 人間らしさにかかわる認知次元
【学習の目標】	「人間としてみなす」という対人認知に関する論考について理解する。
【学習の内容】	教科書P.194 からP.212 までの内容を扱う。
【キーワード】	「人間の本性」、「人間の独自性」、道徳性
【学習の課題】	教科書の該当箇所についての理解およびそれを踏まえての自己覚知
【参考文献】	Bastian, B., Laham, S. M., Wilson, S., Haslam, N., & Koval, P. (2011). Blaming, praising, and protecting our humanity: The implications of everyday dehumanization for judgments of moral status. <i>British Journal of Social Psychology</i> , <b>50</b> , 469-483.
【学習する上での留意点】 第2講と同様とする。	
11. テーマ	道徳性の根拠としての心(1): マインドサーベイによって明らかにされたこと
【学習の目標】	マインドサーベイによって明らかにされた心の認知「構造」について理解する。
【学習の内容】	教科書P.213 からP.228 までの内容を扱う。
【キーワード】	「心の機能」、「行為性」次元、「経験性」次元
【学習の課題】	教科書の該当箇所についての理解およびそれを踏まえての自己覚知
【参考文献】	Gray, h. M., Gray, K., & Wegner, D. M. (2007). Dimensions of mind perception. <i>Science</i> , <b>315</b> , 619.
【学習する上での留意点】 第2講と同様とする。	
12. テーマ	道徳性の根拠としての心(2): モラル・タイプキャストイング
【学習の目標】	モラル・タイプキャストイング仮説について理解する。
【学習の内容】	教科書P.229 からP.250 までの内容を扱う。
【キーワード】	モラル・タイプキャストイング
【学習の課題】	教科書の該当箇所についての理解およびそれを踏まえての自己覚知
【参考文献】	Gray, K., & Wegner, D. M. (2009). Moral typecasting: Divergent perceptions of moral agents and moral patients. <i>Journal of personality and Social Psychology</i> , <b>96</b> , 505-520.
【学習する上での留意点】 第2講と同様とする。	
13. テーマ	道徳性の根拠としての心(3): 対人認知と道徳的な対人判断の関係
【学習の目標】	二者関係における道徳的な配慮を決めるものについて考える。
【学習の内容】	教科書P.250 からP.266 までの内容を扱う。
【キーワード】	二源泉仮説
【学習の課題】	教科書の該当箇所についての理解およびそれを踏まえての自己覚知
【参考文献】	Sytsma, J., & Machery, E. (2012). The two sources of moral standing. <i>Review of Philosophy and Psychology</i> , <b>3</b> , 303-324.
【学習する上での留意点】 第2講と同様とする。	
14. テーマ	互いにみきわめあう私たち
【学習の目標】	対人認知という「個人の認知過程」がいかなる意味で社会的な営みであるのかについて考える。
【学習の内容】	教科書P.267 からP.290 までの内容を扱う。
【キーワード】	「心を読むこと」、「他者をみきわめること」、対人認知の社会性
【学習の課題】	教科書の該当箇所についての理解およびそれを踏まえての自己覚知
【参考文献】	Fisk, S. T., & Taylor, S. E. (2013). <i>Social cognition: From brains to culture</i> . Thousand Oaks, CA: SAGE Publications. (S. T. フィスク・S. E. テイラー (著) 宮本聡介・唐沢穰・小林知博・原奈津子 (訳) (2013). 社会的認知研究 脳から文化まで. 北大路書房.)
【学習する上での留意点】 第2講と同様とする。	
15. テーマ	総括
【学習の目標】	心理臨床の場における相談者と相談者を取り巻く環境について心理専門職者としての適切な受けとめ方を考える。
【学習の内容】	第14講までの学習内容のメモと自己覚知のメモにもとづいて、心理臨床の場における相談者と相談者を取り巻く環境について、心理専門職者として適切な受けとめ方、各自の持つ認知の歪みを最小限にするアイデアを議論する。
【キーワード】	対人認知の情報処理過程、認知バイアス、臨床心理士および公認心理師の職業倫理
【学習の課題】	対人認知についての学びを心理臨床の場において応用するためのアイデアについて考えること。
【参考文献】	特に指定しない。
【学習する上での留意点】 事前に第1講から第14講までの学習内容と自己覚知のメモを各自でまとめて、対人認知についての学びを心理臨床の場において応用するためのアイデアを少なくともひとつは考えておくこと。	